

擧

～けやき～

成田市立中台中学校 学校だより

文責：内田 淳

令和5年 12月1日(金) Vol.30

学校教育目標 『自ら学び、豊かな心を持ち、たくましく生きる生徒の育成』

「仲間も、自分も、大切にしよう」

「あきらめずに、取り組もう」



【ホームページへ】

図書室へ行こうよ！

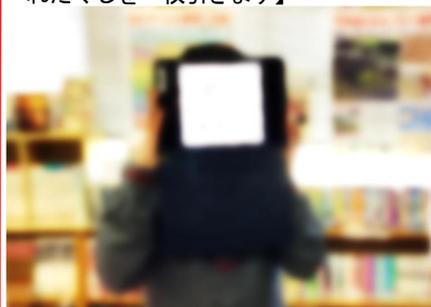
本校の図書室は、読書の活性化に向けて、様々な工夫を行っています。昨日まで、「1冊借りると、先生のサインが当たるおみくじを引ける」というイベントを展開し、熱狂的な盛り上がりを見せていました。22日(水)に行われた研究大会でも、図書室のユニークな運営方法が、大いに話題になりました。



【本を借りた生徒は、QRコードが印刷されたおみくじを一枚引きます】



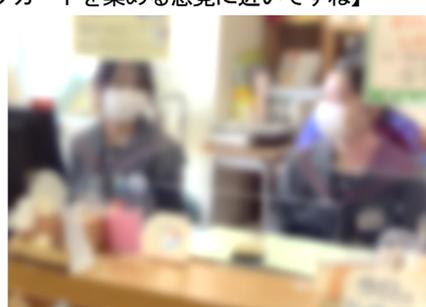
【QRコードだけでは分かりませんが、タブレットで読み取ると、先生のサインの画像がダウンロードされます。トレーディングカードを集める感覚に近いですね】



【このように似顔絵をあしらったものもあり、まさに十人十色。「〇〇先生のが初めて出た!」という喜び(?)の声も】



【さらに、本を借りた人は「学年主任の似顔絵パズル」にも挑戦できます。1ピースずつ貼り付けて…完成したかな?】



【学習図書委員会も、その様子をにこにこしながら眺めています。昼休みの図書室は、とても穏やかで明るいです】

これらの活動をきっかけに、図書室に来て、「不思議なタイトルだな」「表紙のキャラクターが主人公かな」「挿絵や写真だけでも眺めてみようかな」など、様々な本に目を向けて、「手軽に読めそうだな」「ちょっとだけ、借りてみようかな」と手に取ってもらえたらうれしいです。

見て・聴いて・楽しんで

27日(月)、「青少年劇場」と銘打って、体育館でコンサートが催されました。今回は、「ケルト音楽」の演奏と、「ピアノと手回しオルガン」による演奏の2部構成。

「トイピアノ」とは、文字通りおもちゃのピアノ。サオリさんは、肩から掛けて、歩きながら弾いていました。コジコジモヘジさんは、ボタンアコーディオン、バグパイプ、ティンホイッスルなど珍しい楽器を次々に披露。ケルト音楽そのものをよく知らなくても、舞台上のお二人



【左・ピアノ、トイピアノ担当の稲島早織さん。右・バグパイプ、手回しオルガンなどなど担当のコジコジモヘジさん。まずはトイピアノを弾き、ボタンアコーディオンを鳴らしながらの登場。万雷の拍手で迎えられました】



【袋(バッグ)にためた空気を管(パイプ)で鳴らすバグパイプ。袋を手で押して、音が鳴らせるでしょうか?代表して6人の生徒が挑戦。一人ずつが袋をギュッと押して、全員がプィ〜と独特な音を鳴らして合格。袋は硬かったそうです】

が、時に軽快に、時に優雅に曲を奏でる姿には、体育館にいた誰もが引きつけられました。

ケルト音楽の雰囲気味わったところで、休憩を挟んで第2部では、手回しオルガンとピアノのセッション。手回しオルガンは、ブック（音を鳴らす印を刻んだ紙を綴ったもの）を、手動のハンドルで読み込ませながら演奏する楽器。造る職人がだんだん減っている、との事情も話してくれました。



【第2部も、こんな感じで会場を練り歩いて登場。盛り上がりました】



【ハンドルを回させてもらった人もいます。テンポを保つのが難しそう】



【「タイプライター」という曲では、ベルを担当することになった人もいました】

コジコジモヘジさんは、いろいろな曲を耳で聞いただけで覚えて、自分なりのアレンジを加えて、ブックを手作業で作るとか。1曲のブックを作るのに100時間かかることもある、と話していました。

サオリさんは中2の時に「プロのピアニストになる」と決意し、「プロは毎日8時間くらい練習している」と聞いて以来、自分も毎日8時間は練習してきた、と話していました。

華やかなステージで注目されても、そこに至るまでの努力は、並々ならぬものがあるのです。今日の2時間弱のステージのために、お二人がそれぞれに積み重ねてきた時間は、どれほどのものなのだろうか、などと考えさせられました。

ケルト音楽、オルガン職人、プロのミュージシャン……いつか、本校生徒の誰かが、この日のコンサートをきっかけに、音楽に関わる職業に就いたとしたら、とても素敵なことだと思いました。一人ひとりの心に、いろいろなものが残ったひとときであってほしいです。

緊張しても、伝えたいこと

今週の3年生は、進路決定に向けて三者面談を実施する傍ら、学級内で、面接試験の練習に勤しんでいました。写真のように、担任の先生の指導の下で、本番さながらに練習する様子や、生徒同士で練習し合う場面が見られました。



【姿勢を正して、手は膝の上…面接官をまっすぐ見つめて、さあ、面接開始です】



【面接官に「お掛けください」と勧められてから座るのは、基本中の基本ですね】

個々の人物像を見るために、ほとんどの高校入試で面接試験が取り入れられています。その対策として、3年生は、想定される問題から、まず答えを文章で考え、やがて自分の言葉となって自然に答えられるように、何度も練習しています。

志望動機、中学校生活の思い出、最近読んだ本や、印象に残ったニュースなど、様々な質問が予想されます。聞かれたことに答えるだけでなく、面接官とのコミュニケーションを楽しめたら理想的ですが、……なかなかそうもいかないのが、世の常ですね。

それでも、誠実に、一生懸命答える姿勢があれば、緊張して言葉を噛んだり、詰まったりしたとしても、その気持ちはきっと伝わるはず。3年生一人ひとりの持ち味や、頑張っている様子、意欲などがしっかり伝わり、それぞれの未来につながるよう、心から応援しています。練習も、引き続き頑張ってください。

同じ頃、2年生は、15日(金)の「職業人に聞く会」に向けて、講師の方のお迎えを担当する生徒が、練習に取り組んでいました。挨拶・自己紹介をした後に、会場までご案内します。

緊張した雰囲気の中、あらたまった言葉遣いで、初対面の方に話すのは、うまくいかないこともあるかもしれませんが、この経験は、いつか必ず役に立つときが来ます！大切なのは、誠意です！



【ノックして、会釈して、「失礼します。〇〇社の△△様…」と繰り返し練習。お客様役の先生が、じっと見守っています】